

ルーマニア

Romania

	2016年	2017年	2018年
①人口：2,219万人（2018年）			
②面積：23万8,397km ²			
③1人あたりGDP：1万2,285米ドル （2018年）			
④実質GDP成長率（%）	4.8	7.0	4.1
⑤消費者物価上昇率（%）	△1.5	1.3	4.6
⑥失業率（%）	5.9	4.9	4.2
⑦貿易収支（100万ユーロ）	△9,254	△12,183	△14,811
⑧経常収支（100万ユーロ）	△3,498	△5,970	△9,416
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	36,133	40,107	37,856
⑩対外債務残高（グロス） （100万ユーロ）	69,645	68,520	67,219
⑪為替レート（1米ドルにつき、 レイ、期中平均）	4.06	4.05	3.94

〔注〕①：在外ルーマニア人を含む、⑤：年平均、⑦国際収支ベース（財のみ）、⑨金を除く（出所）①②④⑤⑥：ルーマニア国家統計局、③⑨⑩：IMF、⑦⑧⑩：ルーマニア国立銀行

2018年のルーマニアの実質GDP成長率は、堅調な内需に支えられ、4.1%となったが、前年からやや減速した。輸出額は前年比8.1%増、輸入額は消費需要が引き続き高く9.6%増となり、貿易赤字幅が拡大した。対内直接投資は、M&A以外では自動車分野の大規模投資が目立ち、前年比2.9%増と好調だった。日本からの投資は、製造業分野での投資拡大や、発電、教育・人材など新しい分野での投資に動きがみられた。

■ 堅調な内需に牽引されるも、成長は減速

2018年の実質GDP成長率は4.1%となり、2017年に引き続き堅調な内需に支えられて成長を続けるも、2018年1月から5月にかけて3度実施した政策金利の引き上げ（現在2.5%）による金融引き締めの影響もあり、成長は減速した。

2018年のGDP成長率を需要項目別にみると、民間最終消費支出は前年比で3.7%増、政府最終消費支出は12.0%増となった。政府による最低賃金の引き上げ、個人所得税率の引き下げは消費拡大に寄与し、政府最終消費支出の増加については、2017年の公務員給与の引き上げ、および2018年7月1日から給付される年金の引き上げが大きく影響している。一方、公共投資は少し持ち直したものの民間投資が不振で、国内総固定資本形成は2017年の3.5%増から3.2%減へとマイナスに転じた。財貨・サービスの輸出は5.4%増だったが、同輸入は9.1%増となった。

表1 ルーマニアの需要項目別実質GDP成長率

	2017年	2018年				2019年 Q1	
		Q1	Q2	Q3	Q4		
実質GDP成長率	7.0	4.1	4.0	4.1	4.4	4.1	5.1
民間最終消費支出	9.0	3.7	4.1	3.6	3.7	4.5	6.5
政府最終消費支出	5.2	12.0	1.9	3.1	10.7	4.6	3.2
国内総固定資本形成	3.5	△3.2	6.3	△4.8	△1.6	△3.2	5.4
財貨・サービスの輸出	10.0	5.4	8.0	7.0	2.5	4.4	3.5
財貨・サービスの輸入	11.3	9.1	11.5	9.5	6.6	9.0	9.5

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比。

〔出所〕ルーマニア国家統計局

ルーマニア国家統計局（INS）は、2019年第1四半期のGDP成長率を前年同期比で5.1%（季節調整済み）と発表している。引き続き堅調な内需と投資の回復により、高成長を維持している。

2018年の消費者物価上昇率は、食料品やガス価格高騰などの影響を受け、2017年の1.3%を大きく上回る4.6%となった。2019年に入ってもおおむね4%台で推移しており、さらなる政策金利引き上げの可能性もある。

■ 乗用車の輸出額が大幅に増加

2018年の貿易は、輸出額が前年比8.1%増の677億3,300万ユーロ、輸入額が9.6%増の828億6,700万ユーロと、共に増加した。堅調な内需により輸入が輸出を上回って増加したため、貿易赤字は151億3,400万ユーロと21億7,400万ユーロ拡大した。

輸出金額を品目別にみると、最大の輸出品目である機械・電気機器（構成比28.7%）は前年比9.1%増となり、特にドイツへの輸出増が牽引した。次いで輸送用機器（18.8%）も12.9%増となり、そのうち乗用車（6.9%）が52.4%増と大幅に増加した。ルーマニアに生産拠点を持つフォードの2018年の輸出台数は14万2,326台で、前年比2.9倍となった。金属（8.9%）は12.5%増と前年に続き堅調で、鉱物性製品（4.3%）は17.1%増、化学品（3.3%）も6.9%増となった。2017年に伸び率がマイナスだっ

表2 ルーマニアの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2017年		2018年		2017年		2018年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械・電気機器	17,823	19,447	28.7	9.1	20,995	23,107	27.9	10.1
輸送用機器	11,303	12,757	18.8	12.9	7,507	8,654	10.4	15.3
自動車・トラクター用部品	6,598	6,455	9.5	△2.2	2,999	3,886	4.7	29.6
乗用車	3,053	4,654	6.9	52.4	2,043	2,224	2.7	8.9
金属	5,330	5,994	8.9	12.5	7,964	8,849	10.7	11.1
繊維	4,046	4,053	6.0	0.2	4,835	4,994	6.0	3.3
プラスチック・ゴム製品	3,588	3,874	5.7	8.0	5,531	5,921	7.1	7.0
植物性生産品	3,502	3,574	5.3	2.1	2,395	2,315	2.8	△3.3
穀物	1,981	2,163	3.2	9.2	468	321	0.4	△31.4
鉱物性製品	2,472	2,895	4.3	17.1	5,391	6,698	8.1	24.2
雑製品	2,640	2,792	4.1	5.7	1,699	1,917	2.3	12.9
化学品	2,078	2,221	3.3	6.9	7,392	7,626	9.2	3.2
合計 (その他含む)	62,644	67,733	100.0	8.1	75,604	82,867	100.0	9.6

〔注〕① EU域外貿易は通関ベース、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

② 2017年、2018年の金額とも、2018年6月21日時点の数値。

〔出所〕 ルーマニア国家統計局

リア (11.4%) は10.0%増、フランス (7.1%) は13.4%増、スペイン (3.1%) は12.2%増など主要国への輸出が伸び、ユーロ圏 (56.6%) 全体で9.2%増となった。非ユーロ圏で伸び率が高かったのは、ハンガリー (4.9%) の12.5%増、次いで英国 (4.2%) の12.2%増だった。英国向けの輸出を品目別にみると、乗用車の輸出が前年比2.6倍と大きく伸びた。これはフォードが「エコスポーツ」の需要の高まりを受けて、2017年10月からルーマニアで生産を開始し、欧州市場向けの生産をインドからシフトした結果、ルーマニアから英国へ輸出されるようになったことが大きいと考えられる。

表3 ルーマニアの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2017年		2018年		2017年		2018年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU	47,471	51,973	76.7	9.5	57,278	61,873	74.7	8.0
ユーロ圏	35,103	38,315	56.6	9.2	40,570	44,081	53.2	8.7
ドイツ	14,352	15,562	23.0	8.4	15,137	16,956	20.5	12.0
イタリア	7,039	7,746	11.4	10.0	7,580	7,778	9.4	2.6
フランス	4,242	4,810	7.1	13.4	4,003	4,221	5.1	5.4
スペイン	1,870	2,098	3.1	12.2	2,037	2,208	2.7	8.4
オランダ	1,608	1,756	2.6	9.2	2,999	3,218	3.9	7.3
オーストリア	1,462	1,548	2.3	5.9	2,513	2,722	3.3	8.3
スロバキア	1,075	1,271	1.9	18.2	1,785	1,899	2.3	6.4
ベルギー	1,245	1,209	1.8	△2.9	1,763	1,966	2.4	11.5
非ユーロ圏	12,368	13,658	20.2	10.4	16,708	17,792	21.5	6.5
ハンガリー	2,940	3,307	4.9	12.5	5,680	5,695	6.9	0.3
英国	2,561	2,874	4.2	12.2	1,691	1,745	2.1	3.2
ブルガリア	2,100	2,204	3.3	4.9	2,146	2,304	2.8	7.4
ポーランド	1,961	2,149	3.2	9.6	4,113	4,612	5.6	12.1
チェコ	1,802	2,007	3.0	11.3	2,173	2,427	2.9	11.7
トルコ	2,093	1,980	2.9	△5.4	3,018	3,602	4.3	19.4
米国	1,109	1,330	2.0	20.0	1,095	898	1.1	△18.0
モルドバ	946	1,153	1.7	21.9	602	740	0.9	22.9
ロシア	1,105	1,080	1.6	△2.3	2,483	3,131	3.8	26.1
セルビア	753	750	1.1	△0.4	567	753	0.9	32.8
中国	738	746	1.1	1.0	3,795	4,407	5.3	16.1
日本	234	250	0.4	7.1	347	349	0.4	0.7
イラン	436	239	0.4	△45.3	46	40	0.0	△13.4
韓国	243	196	0.3	△19.5	416	412	0.5	△1.0
カナダ	185	172	0.3	△6.8	114	121	0.1	6.6
カザフスタン	29	46	0.1	61.5	1,113	1,340	1.6	20.5
合計 (その他含む)	62,644	67,733	100.0	8.1	75,604	82,867	100.0	9.6

〔注〕① EU域外貿易は通関ベース、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

② 2017年、2018年の金額とも、2018年6月21日時点の数値。

〔出所〕 ルーマニア国家統計局

た繊維 (6.0%) は0.2%増とわずかに持ち直した。

輸出を国・地域別にみると、全体の76.7%を占めるEUは前年比9.5%増だった。ルーマニアにとって最大の輸出先であるドイツ (構成比23.0%) は8.4%増、次いでイタ

フランスが11.3%増、ポーランドが37.9%増、チェコが26.6%増となった。

鉱物性製品 (8.1%) は24.2%増となり、特にイラク、米国からの輸入が増加している。そのほか、金属 (10.7%)

EU域外では、モルドバ (構成比1.7%) も21.9%増と高い伸び率を示したが、これは鉱油・鉱油製品の25.2%増、電気機器の45.7%増、自動車・自動車部品の16.6%増などが牽引した。また、米国 (2.0%) も20.0%増と大きく伸びた。EU域外最大の輸出先であるトルコ (2.9%) は5.4%減となり、そのほかロシア (1.6%) は2.3%減、セルビア (1.1%) は0.4%減、韓国 (0.3%) は19.5%減となった。韓国への輸出は、穀物の32.5%減、木材・木材製品の56.0%減、機械・電気機器の23.5%減が大きく影響した。

■ 内需拡大で輸入総額は増加、貿易赤字の拡大が続く

内需は引き続き拡大基調にあり、輸入額は主要品目においておおむね増加した。最大輸入品目である機械・電気機器 (構成比27.9%) は前年比10.1%増加した。次いで、輸送用機器 (10.4%) は15.3%増で、うち乗用車 (2.7%) が8.9%増、自動車・トラクター用部品 (4.7%) が29.6%増となった。自動車部品の輸入については、金額が大きい順にドイツが50.1%増、

は前年比11.1%増、化学品（9.2%）は3.2%増となった。

国・地域別にみると、全体の74.7%を占めるEUは8.0%増だった。そのうち、ユーロ圏（構成比53.2%）は8.7%増となった。最大の輸入元であるドイツ（20.5%）は12.0%増、次いでイタリア（9.4%）が2.6%増、フランス（5.1%）が5.4%増となった。ドイツからの輸入の増加は、輸送用機器の16.6%増、電気機器の11.1%増などに牽引された。また11.5%増と伸び率が大きかったベルギーからの輸入は、銅およびその製品の70.8%増、プラスチック・プラスチック製品の17.0%増、輸送用機器の14.6%増などが

増加要因となった。非ユーロ圏（21.5%）は6.5%増で、その中では最大の輸入元であるハンガリー（6.9%）は0.3%増だったが、ポーランド（5.6%）は12.1%増、チェコ（2.9%）は11.7%増と大きく伸びた。

EU域外からの輸入のうち、構成比が大きく伸び率が高かったのは、中国（5.3%）の16.1%増、トルコ（4.3%）の19.4%増、ロシア（3.8%）の26.1%増、カザフスタン（1.6%）の20.5%増などだった。中国からの輸入増加は、特に、電気機器の18.5%増、光学機器・精密機器の27.4%増などに牽引された。

表4 ルーマニアの対内直接投資
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

（単位：100万ユーロ）

2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
2,713	2,421	3,461	4,517	4,797	4,988

〔出所〕ルーマニア国立銀行

■活発なM&Aで対内直接投資は増加、自動車分野の大型投資も目立つ

ルーマニア国立銀行によると、2018年の対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は、前年比4.0%増

表5 ルーマニアの主な対内直接投資案件（2018年1月～2019年5月）

＜M&A以外＞

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
たばこ	ブリティッシュ・アメリカン・タバコ	英国	2018年6月	8億ユーロ	加熱式たばこのプロイェシュチ工場の拡張を発表。今後5年間で8億ユーロを投資し、200人の新規雇用を創出。
自動車	フォード	米国	2018年5月	約2億ユーロ	ルーマニア南部のクラヨーバ工場で新たな車種の生産を開始することを発表。1,500人分の新規雇用創出を見込む。
ソフトウェア	フィナストラ	英国	2018年11月	非公表	金融関連ソフトウェア開発企業が新たにブカレストでオフィスを開設したと発表。550人を雇用する。
自動車部品	ソゲフィ・サスペンション	フランス	2018年12月	5,000万ユーロ	西部のビホル県に自動車のサスペンションシステム用の部品工場建設を発表。
自動車部品	ピレリ	中国	2019年2月	約4,000万ユーロ	スラティナにある施設の隣に新倉庫の建設と生産拠点の拡大を発表。
自動車部品	シェフラー	ドイツ	2018年10月	非公表	ドイツ自動車部品大手がルーマニアにテストセンターを開設すると発表。2019年にオープン予定で、160人のエンジニアが勤務する。
自動車部品	ボッシュ	ドイツ	2018年5月	700万ユーロ	ドイツ自動車部品大手がルーマニア中部のブラジ工場にオフィスを新設すると発表。

＜M&A＞

業種	被買収企業（事業）		買収企業		時期	投資額	概要
	企業名	企業名	国籍				
IT	ソフトビジョン	コグニザント・テクノロジーズソリューションズ	米国		2018年10月	非公表	ソフトウェア開発のソフトビジョンを買収すると発表。
農業	アグリコスト・ブライラ	アル・ダーラ	アラブ首長国連邦		2018年9月	非公表	ルーマニア最大の農業生産者を買収、さらに今後5年間でさらなる農地の獲得、機械設備や技術の更新など、5億ドルの投資を計画していると発表。
素材	エコパック、エコペーパー	ディーエス・スミス	英国		2018年3月	2億800万ユーロ	包装紙メーカーのエコパック、紙メーカーのエコペーパーを買収完了を発表。
エンターテインメント	スーパーベット・インタラクティブ	ブラックストーン・タクティカル	米国		2019年5月	1億7,500万ユーロ	ギャンブル関連サービスのスーパーベットインタラクティブの非公開少数株式を、約1.7億ユーロで取得。
金融	ルーマニア商業銀行（BCR）	エルステ・グループ	オーストリア		2018年6月	1億4,000万ユーロ	ルーマニア商業銀行の株式6.29%を買収すると発表。株式保有率は99.88%に。
不動産	アトリウム・ミリタリ・ショッピングセンター	エムエーエス・リアルエステイト	英領マン島		2018年7月	9,500万ユーロ	商業施設のアトリウム・ミリタリ・ショッピングセンターを取得。
不動産	アトリウム・ミリタリ・ショッピングセンター	エムエーエス・リアルエステイト	英領マン島		2018年12月	4,050万ユーロ	商業施設のアトリウム・モールを取得。
金融	パトリア銀行	クルック	ポーランド		2019年1月	約2億4,500万レイ	パトリア銀行が契約数9,800件の不良債権を売却。
IT	フロアラ	イデラ	米国		2018年6月	非公表	ウェブ・アプリ開発ツールを提供するスタートアップ企業のフロアラを買収。

〔出所〕各社発表および報道などから作成

の49億8,800万ユーロとなった。2019年8月時点でルーマニア国立銀行およびルーマニア国家統計局は国・地域別、業種別の詳細を発表していない。2017年末時点の対内直接投資残高758億5,100万ユーロの国・地域別内訳をみると、上位5カ国はオランダ（構成比25.9%）、ドイツ（12.8%）、オーストリア（12.6%）、イタリア、フランス（ともに6.2%）だった。日本からの対内直接投資残高は3億1,500万ユーロ（0.4%）で、前年比3,100万ユーロ増となった。

グリーンフィールドの対内直接投資案件については、自動車分野の投資が目立った。米国のフォードは2018年5月、ルーマニア南部のクラヨーバ工場で新たな車種の生産を開始することを発表した。投資額は約2億ユーロとなる。フランスのソゲフィ・サスペンションは2018年12月、西部のビホル県に自動車のサスペンションシステム用の部品工場を建設すると発表した。投資総額は5,000万ユーロで、政府から工場建設に対する約2,200万ユーロの補助金を得た。2019年にも自動車関連の投資がみられ、中国資本傘下のイタリアのタイヤメーカー、ピレリは2019年2月、約4,000万ユーロを投資し、新倉庫の建設と生産拠点の拡大を行うと発表した。

自動車分野以外での大きな投資案件としては、たばこ製造大手の英国ブリティッシュ・アメリカン・タバコが、2018年6月、プロイエシユティにある工場に5年間で8億ユーロの追加投資を行うと発表した。同工場は加熱式たばこ「グロー・ネオスティック」の欧州で唯一の製造工場となる見込みで、200人を新規雇用する。

ルーマニア経済紙「ジアルル・フィナンチアル」が2019

表6 ルーマニアの対外直接投資
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

（単位：100万ユーロ）

2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
211.4	281.5	506.9	△4.1	85.5	△11.1

〔出所〕ルーマニア国立銀行

表7 ルーマニアの主な対外直接投資案件（2018年1月～2019年5月）

＜M&A＞

買収企業（事業）		被買収企業（事業）		時期	投資額	概要
企業名	業種	企業名	国籍			
アレクサンドリオングループ	食品	ヘイルウッド・ワイン&スピリッツ	英国	2018年6月	非公表	大手蒸留酒製造卸のアレクサンドリオングループがヘイルウッド・ワイン&スピリッツ傘下の6つのルーマニアワインメーカーを買収。
ビットディフェンダー	IT	エスエムエス・イーテック	オーストラリア	2018年9月	非公表	セキュリティソフト大手のビットディフェンダーがオーストラリア販売代理店のエスエムエス・イーテックを買収。
ビットディフェンダー	IT	レッドソックス・セキュリティー	オランダ	2018年10月	非公表	セキュリティソフト大手のビットディフェンダーがネットワークセキュリティ企業レッドソックス・セキュリティーを買収。
メッドライフ	ヘルスケア	ロズサカート・メディカル・センター・グループ	ハンガリー	2019年1月	非公表	大手私立病院のメッドライフが同業種のロズサカート・メディカル・センター・グループの51%の株式を取得。

〔出所〕各社発表および報道などから作成

年6月に発行した「Top 2019 Tranzactii」によると、2018年のM&A案件（対内間接投資、国内投資案件も含む）は130件、総額が前年比84.4%増の72億3,000万ユーロとなった。件数では、電気通信・IT分野が最多となり、26件のM&Aが行われた。

IT分野では、米国のイデラグループが6月、ウェブ・アプリ開発ツールを提供するスタートアップ企業のフロアラを買収した。また、米国ITサービス関連のコグニザント・テクノロジーソリューションズが10月、ソフトウェア開発のソフトビジョンを買収すると発表した。

そのほかの分野で規模が大きかった案件としては、農業分野でアラブ首長国連邦のアル・ダラがルーマニア最大の農業生産者のアグリコスト・ブライラを買収し、今後5年間で、5億ドルの投資をすると2018年9月に発表した。また、エンターテインメント分野では、米国のブラックストーン・タクティカルが2019年5月、ルーマニアのキャンブル関連サービスのスーパーベット・インタラクティブの非公開株式を1億7,500万ユーロで取得した。不動産分野では、英領マン島のエムエーエス・リアルエステイトが2018年7月と12月にショッピングセンターを相次いで取得した。

ルーマニア国立銀行によると、2018年のルーマニアの対外直接投資額は、約1,110万ユーロ（国際収支ベース、ネット、フロー）の引き揚げ超過に転じた。また、2018年末の対外直接投資残高は、6億5,100万ユーロだった。2019年8月時点でルーマニア国立銀行およびルーマニア国家統計局は国・地域別、業種別の詳細を発表していない。

対外直接投資のM&A案件としては、IT分野では、ルーマニアのセキュリティソフト大手のビットディフェンダーが9月、オーストラリア販売代理店のエスエムエス・イーテックの買収を発表したほか、10月にはオランダのネットワークセキュリティ関連スタートアップ、レッドソックス・セキュリティーを買収し、グローバルに事

業の拡大を推進した。食品分野では、大手蒸留酒製造卸のアレクサンドリオングループが6月、ルーマニアワイン生産・輸出大手の英国ヘイルウッド・ワイン&スピリッツ傘下のワインメーカー6社買収したことで、ルーマニア市場における事業をさらに拡大した。

■ たばこ製品や自動車部品の対日輸出が急増

2018年の対日輸出は前年比6.7%増の2億4,900万ユーロ、対日輸入は0.8%増の3億4,900万ユーロであった。輸出が増加したことで、貿易赤字額は1億ユーロと、前年から1,300万ユーロ減少した。

輸出を主要品目別にみると、最大品目の木材・木炭（構成比53.0%）は、前年比9.0%減となり、前年に続き減少した。違法伐採是正のための規制などにより一部の木材で伐採量が減少し、木材の価格が上昇したことが要因となり、近年日本への製材輸出が減少していると考えられる。

続くたばこ・たばこ製品（26.1%）は2.3倍と大きく伸びた。このうち、たばこ代用品は99.6%を占めた。日本での需要が伸びている加熱式たばこ「グロー」の製造工場があり、その拠点からの輸出が寄与したと考えられる。

そのほかの伸び率が大きかった品目では、光学機器・精密機器（4.4%）が66.7%増、輸送用機器（2.3%）が85.4%増となった。輸送用機器では、特に自動車・トラクター用部品（1.7%）の輸出額は3.0倍と大幅に増加した。一方、原子炉・ボイラー・機械類（1.0%）は前年比45.4%減となった。また、2017年に急激に輸出額が増えた医薬品（0.7%）は、その反動から77.2%減と大きく減少している。

対日輸入を主要品目別にみると、最大品目の原子炉・

ボイラー・機械類（構成比25.1%）は0.1%増とほぼ前年と同じで、電気機械・電気機器（21.0%）は11.1%増加した。輸送用機器（20.8%）は16.6%増加したが、そのうち自動車（11.8%）が26.2%増となった。2018年は日本から前年の2.9倍の3,944台の乗用車が輸入されている。2019年2月の日EU・EPAの発効により、日本からルーマニアへの主力輸出品である機械・機器類、自動車、自動車部品などへの関税の即時撤廃や段階的撤廃を受け、今後の輸出増加が期待される。

一方、ゴム・ゴム製品（5.4%）は15.8%減、プラスチック・プラスチック製品（4.8%）は17.3%減、ガラス・ガラス製品（2.2%）は32.1%減となった。

■ 日系企業、多岐にわたる分野で新たな動き

2018年の日系企業による投資は、製造業、発電、教育・人材など、多岐にわたる分野で新たな動きがあった。電動工具メーカーのマキタは5月、ルーマニア工場の生産能力増強のため、既存の敷地内に第4工場の建設を開始した。同工場では月35万台を生産するが、今後は月100万台を生産可能な体制へ強化する。日本電産は5月、ピテシュティ市近郊に家電用モーターの製造工場を新設した。従業員は500人で、2年以内に倍増させる意向だ。

教育・人材分野では、人材派遣大手のヒューマンリソシアが11月、ブカレスト経済大学と、日本語教育および文化活動の相互交流と協力関係の推進のため、覚書を締結した。同社は12月、投資コンサルティング会社のワイズ・ファイナンス・ソリューションと、ルーマニアのITエンジニアの日本での就職支援を目的とした覚書も締結している。2019年以降も幅広い分野で投資が続いている。三菱電機ヨーロッパは、主にエアコン販売事業強化のた

表8 ルーマニアの対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：百万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2017年	2018年				2017年	2018年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
木材・木炭	145	132	53.0	△9.0	原子炉・ボイラー・機械類	88	88	25.1	0.1
たばこ・たばこ製品	28	65	26.1	128.3	電気機械・電気機器	66	73	21.0	11.1
光学機器・精密機器	7	11	4.4	66.7	輸送用機器	62	73	20.8	16.6
輸送用機器	3	6	2.3	85.4	自動車	33	41	11.8	26.2
自動車・トラクター用部品	1	4	1.7	203.5	自動車・トラクター用部品	24	25	7.2	4.9
衣類・衣類付属品（編んでいない物）	5	5	1.9	△8.1	鉄鋼製品	22	21	6.2	△2.8
ゴム・ゴム製品	5	5	1.8	△6.4	ゴム・ゴム製品	22	19	5.4	△15.8
天然蜂蜜	6	4	1.7	△22.6	プラスチック・プラスチック製品	20	17	4.8	△17.3
電気機械・電気機器	2	3	1.2	88.2	卑金属のその他の物品	10	9	2.6	△10.4
プラスチック・プラスチック製品	3	3	1.1	△8.2	ガラス・ガラス製品	11	8	2.2	△32.1
原子炉・ボイラー・機械類	5	2	1.0	△45.4	光学機器・精密機器	7	7	2.1	4.4
衣類・衣類付属品（編み物）	2	2	0.9	35.5	鉄鋼	7	7	2.0	△1.7
家具、その他	2	2	0.8	△15.6	その他の化学製品	4	5	1.4	10.0
医薬品	7	2	0.7	△77.2	有機化学薬品	4	3	0.9	△12.0
合計（その他含む）	234	250	100.0	7.1	合計（その他含む）	347	349	100.0	0.7

〔出所〕EU統計局

め、支店をブカレストに設置し、2019年4月にルーマニア航空局（ロマツァ）から、ブカレスト近郊にあるアンリ・コアンダ国際空港向けの「空港気象ドップラーライダー」（大気中のちりや微粒子の動きを捉えることで、晴天時でも風速や風向きをリアルタイムに測定する装置）を受注した。また、公文教育研究会が2019年4月に、ブカレストにルーマニア第1号となる公文式教室を開設。教

育分野における大手日系企業の進出事例としては、2017年9月のしちだ・教育研究所に次ぐ2例目となった。発電インフラ分野では、川崎ガスタービンヨーロッパが2019年2月に、駐在員事務所を設立した。同社はガスタービンを利用したコージェネレーションシステムを提供する。